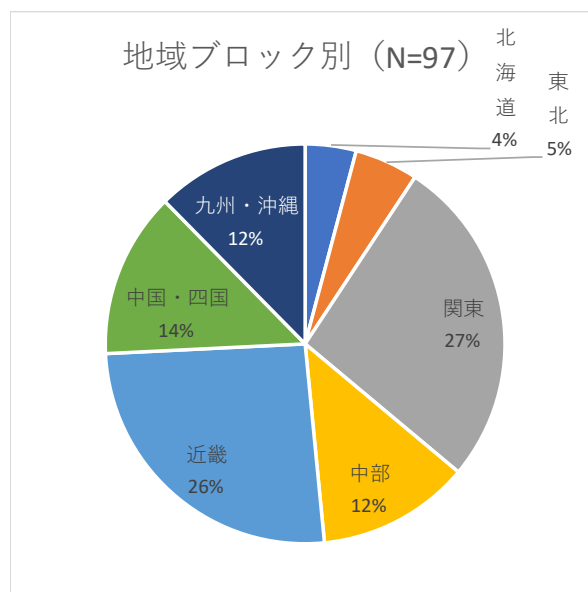
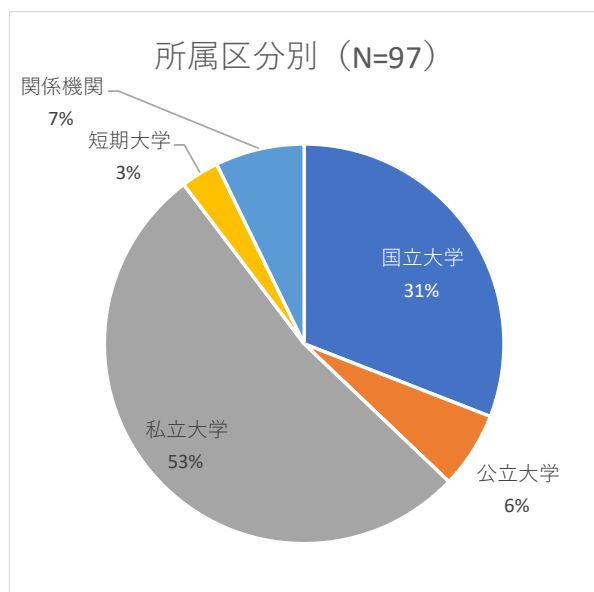
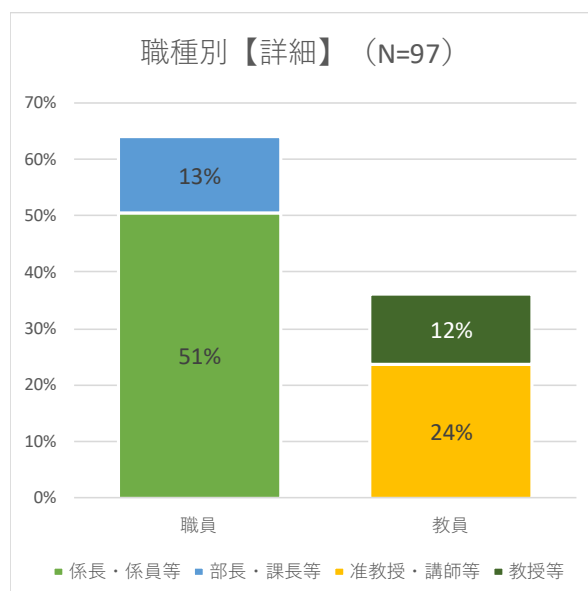
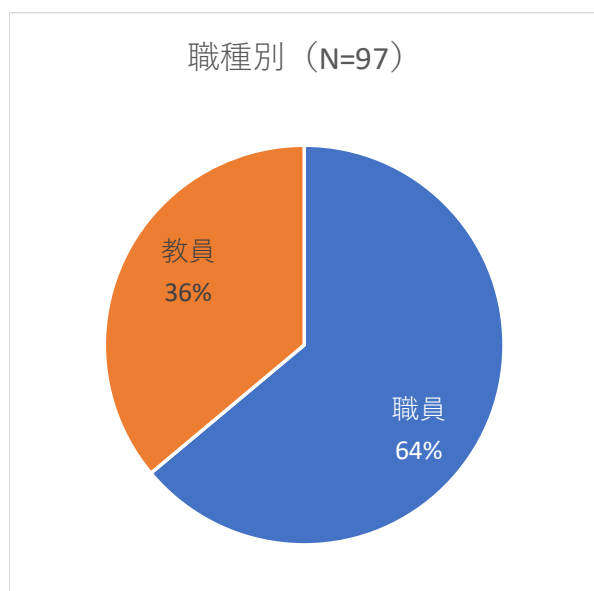


○ 参加者について

1日目（8月22日）に開催した「IR 実務担当者セッション」には、計97名が参加しました。参加者の属性分析は、申し込み時に参加者からご提供頂いた所属や職種等の情報を基に行いました。なお、「参加者」とは、国公立大学、短期大学及び関係機関の「通常会員」であり、運営スタッフである「幹事」及び「運営協力者等」の10名を含んでいます。

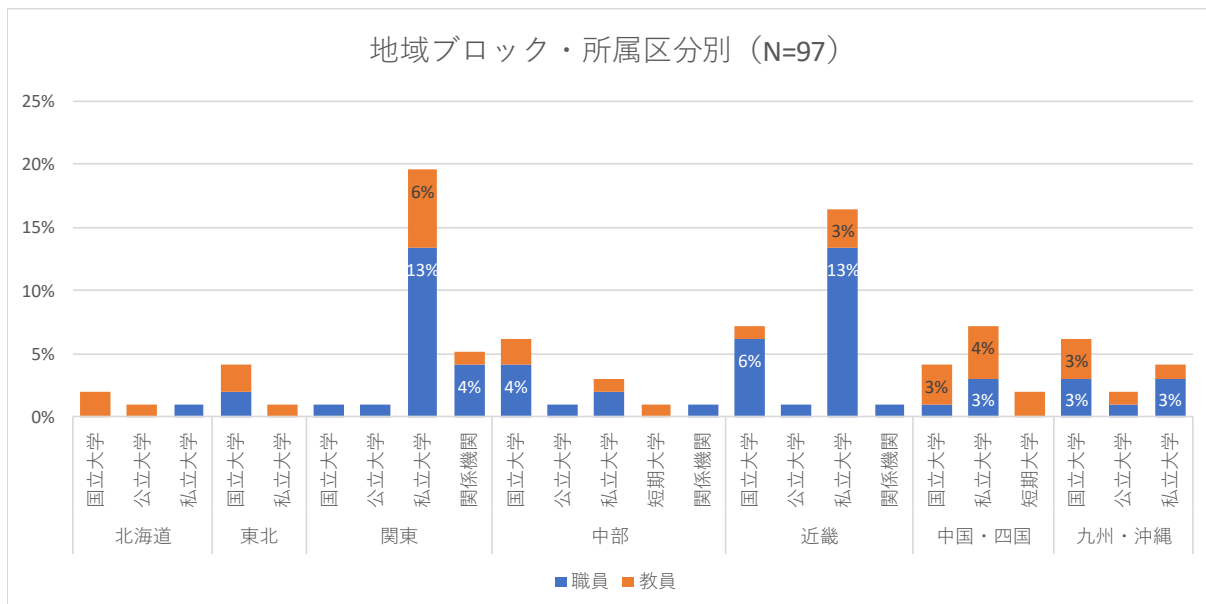
職種別の参加比率では、職員が64%、教員が36%でした。また、職員の職層を「部長・課長等」及び「係長・係員等」、教員の職層を「教授等」及び「准教授・講師等」に分けて示すと、職員の係長・係員等が51%と最も多く、次いで教員の准教授・講師等が24%でした。

所属区分別では、私立大学が53%と半数以上を占めており、次いで国立大学が31%でした。本セッションは、計画立案・評価のためのロジックモデルセッションや23日のIR 実務担当者セッションと同様に、私立大学の参加者が多かった。



地域ブロック別では、関東地方が 27%、近畿地方が 26%であり、交通の便がよい大都市圏から多く参加されていることが伺えます。

地域ブロック・所属区分別と職種別をあわせて確認すると、関東地方の私立大学の教職員が 19%と最も多く、次いで近畿地方の私立大学の教職員が 16%でした。



本セッションでは、IR データの分析や分析結果の活用などのテーマを中心に、参加者が IR や評価の現場での事例や課題の報告を行うとともに、他大学の事例からヒントを得たり、質疑応答を通じて知見の共有を図ったりしました。従来の定員 (30 名) を広げて募集しましたが、想定を超える申し込みがあり、100 名で申し込みを締め切りました。質疑応答の内容から、参加者の多くは、学修成果の評価、IR データの可視化、米国におけるデータの収集・管理・活用等について関心が高かったと推察されます。

(山本 [明治大]、大野 [鳥取大])

■区分表（共通）

地域ブロック	説明
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
中部	新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県
近畿	大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、三重県、滋賀県、和歌山県
中国・四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
その他	米国

職種	職種区分	説明
職員	部長・課長等	部長、課長、課長補佐、副課長、専門員、グループ長、グループリーダー、総括主査、事務長、室長、次長、部長、参事、副参事、など
	係長・係員等	係長、主任、主査、主事、専門職員、課員、係員、チーム員、職員、スタッフ、所員、特任研究員、など
教員	教授等	学長、副学長、学長補佐、部局長、教授、など
	准教授・講師等	准教授、講師、助教、など